

研究事業「健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究」平成15年度総括・分担研究報告書, 33-48, 2004.

37) 田中大祐, 鏡森定信: 温泉利用の安全管理に関する研究—レジオネラ感染の検討— (分担研究報告). 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究」平成15年度総括・分担研究報告書, 49-57, 2004.

38) 鏡森定信, 浅野井英次, 掘井雅恵, 山田邦博: 心・血管系の循環動態から見た安全な入浴法の検討 (分担研究報告). 厚生労働科学研究費補助金がん予防等健康科学総合研究事業「健康増進施設が住民の生活の質と健康寿命の改善に果たす役割に関する研究」平成15年度総括・分担研究報告書, 58-77, 2004.

39) 王 紅兵, 関根道和, 濱西島子, 山上孝司, 鏡森定信: 社会経済指標とQOL・睡眠の質. 厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業「小児の栄養・運動・休養から見た健康度指標とQOLに関する研究」. H15年度総括・分担研究報告書, 67-71, 2004.

40) 鏡森定信: 新名湯図鑑, 北国新聞社, 金沢, 2004.

## 公 衆 衛 生 学

### Public Health

教 授	稲寺 秀邦	Hidekuni Inadera
助 教 授	寺西 秀豊	Hidetoyo Teranishi
助 手	加藤 輝隆	Terutaka Katoh
助 手	内田 満夫	Mitsuo Uchida
助手(前)	青島 恵子	Keiko Aoshima

### ◆ 著 書

- 1) Kawano S., and Katoh T.: Effects of air pollution on vegetation in rural areas of Central Honshu, Japan -A record of monitoring study over past 30 years-. In "Proceedings of the International Symposium of the Kanazawa University 21st-century COE Program, Volume 2", Hayakawa K., Kizu R., and Kamata N. (Eds.), 103-111, Kanazawa University, Kanazawa, 2004.
- 2) 稲寺秀邦: Serial Analysis of Gene Expression (SAGE)法 先端の分析法—理工学からナノ・バイオまで—. 梅澤喜夫, 澤田嗣郎, 寺部茂監修, エヌ・ティ・エス, 257-260, 2004.

### ◆ 原 著

- 1) Uchida M., Teranishi H., Aoshima K., Katoh T., Kasuya M., and Inadera H.: Reduction of erythrocyte catalase and superoxide dismutase activities in male inhabitants of a cadmium-polluted area in Jinzu River basin, Japan. *Toxicol. Lett.*, 151:451-457, 2004.
- 2) Hayashi Y., Kondo T., Zhao Q.L., Ogawa R., Cui Z.G., Feril L.B. Jr., Teranishi H., and Kasuya M.: Signal transduction of p53-independent apoptotic pathway induced by hexavalent chromium in U937 cells. *Toxicol. Appl. Pharmacol.* 197:96-106, 2004.
- 3) Yurino H., Ishikawa S., Sato T., Akadegawa K., Ito T., Ueha S., Inadera H., and Matsu-shima K.: Endocrine disruptors (environmental estrogens) enhance autoantibody production by B1 cells. *Toxicol. Sci.* 81:139-147, 2004.
- 4) Nishijo M., Satarug S., Honda R., Tsuritani I., and Aoshima K.: The gender differences in health effects of environmental cadmium exposure and potential mechan-

- isms. Mol. Cell Biochem. 255:87-92, 2004.
- 5) Ishizuka M., Kita T., Katoh T., Tsuda M., Tosa H., Tsuneki H. and Kimura I.: Cluster analysis of first-come patients' answers for Japanese-Oriental Kampo questionnaire supporting the empirical decision of Shosyndrome. Kampo Med., 55:347-355, 2004.
  - 6) Miyahara T., Katoh T., Watanabe M., Mikami Y., Uchida S., Hosoe M., Sakuma T., Nemoto N., Takayama K. and Komurasaki T.: Involvement of mitogen-activated protein kinases and protein kinase C in cadmium-induced prostaglandin E<sub>2</sub> production in primary mouse osteoblastic cells. Toxicology, 200:159-167, 2004.
  - 7) Nobori Y., Sato K., Onodera H., Noda M. and Katoh T.: Development of stem density analyzing system combined X-ray densitometry and stem analysis. J. Forest Planning, 10:47-51, 2004.
  - 8) 林 節男, 寺西秀豊, 下岡由美, 山田典子: ナシ生産者のアレルギー自覚症状と花粉のIgE抗体検査の意義. 花粉症研究会会報, 15:13-21, 2004.
  - 9) 八塚美樹, 鴻巣聡子, 今西信子, 佐藤美友紀, 片田裕子, 上田京佳, 寺西秀豊, 落合 宏: 富山県内一般若年者のラテックスアレルギーに関する実態調査と低アレルギーラテックス作成の試み. 富山医科薬科大学看護学会誌, 5:29-38, 2004.
- ◆ 総 説
- 1) 稲寺秀邦: 内分泌攪乱物質がアレルギーに及ぼす影響. 臨床免疫, 41:49-53, 2004.
  - 2) 稲寺秀邦: 内分泌攪乱物質問題. 北陸公衆衛生学会誌, 31:1-6, 2004.
  - 3) 平英彰, 吉井エリ, 寺西秀豊: スギ雄花の花粉飛散特性. アレルギー, 53:1187-1194, 2004.
- ◆ 学会発表
- 1) 百合野秀朗, 石川 昌, 佐藤 卓, 伊藤利洋, 赤出川賢治, 北島正大, 稲寺秀邦, 松島綱治: SLEマウスにおける環境ホルモンの自己抗体産生への影響. 第74回日本衛生学会総会, 2004, 3, 東京.
  - 2) 林 節男, 山田典子, 寺西秀豊: アレルギー性からみたナシ・リンゴ園の作業環境調査(3). 第21回富山県農村医学研究会, 2004, 3, 富山.
  - 3) 金子真実, 林 節男, 寺西秀豊: 富山県におけるアレルギー性花粉の年次別飛散状況の調査—スギ花粉飛散量と気象データとの関係—. 第21回富山県農村医学研究会, 2004, 3, 富山.
  - 4) 稲寺秀邦: SAGE(Serial Analysis of Gene Expression)法によるダイオキシンの標的遺伝子の同定とSAGE-based DNAマイクロアレイを用いた化学物質の肝臓への影響評価. 第77回日本産業衛生学会, シンポジウム「有害化学物質の毒性評価方法の新しい展開」, 2004, 4, 名古屋.
  - 5) 野堀嘉裕, 佐藤啓子, 野田真人, 加藤輝隆: 軟X線デンシトメトリーによるブナ樹幹の容積密度分布解析. 第115回日本林学会大会, 2004, 4, 東京.
  - 6) 寺西秀豊, 劔田幸子: 最近の気象変動のスギ花粉飛散開始日に及ぼす影響. 第16回アレルギー学会春季臨床大会, 2004, 5, 前橋.
  - 7) 寺西秀豊: 日本花粉学会第44回大会(富山)にみる花粉学研究動向. 第16回花粉研究会学術集会, 2004, 5, 富山.
  - 8) Teranishi H., Katoh T., Kenda Y., and Hayashi S.: Global warming and the earlier start of Japanese-cedar (*Cryptomeria japonica*) pollen season, in Toyama, Japan. 11th International Palynological Congress, 2004, 7, Granada.
  - 9) Hayashi S., Teranishi H., Shimooka Y. and Yamada N.: Allergenic pollens in the working environment of Japanese orchard. 11th International Palynological Congress, 2004, 7, Granada.
  - 10) 宮原龍郎, 加藤輝隆, 伊藤純代, 青野充範, 佐久間勉, 根本信雄, 杉山英二, 小柴 俊: EGFファミリー分子エピレグリンの骨吸収促進作用, 第22回日本骨代謝学会, 2004, 8, 大阪.
  - 11) Katoh T.: Relationship between mast fruitions and tree-ring width of *Fagus crenata* and the number of Asian black bear captured in Toyama Prefecture, Central Japan. Euro Dendro2004, 2004, 9, Rendsburg (Germany).
  - 12) 寺西秀豊, 林 節男: 果樹園作業におけるアレルギー症状とヒカゲノカズラ. 第53回日本農村医学会学術総会, 2004, 9, 秋田.
  - 13) 稲寺秀邦: 環境ホルモンとアレルギー. 第54回アレルギー学会総会, 教育講演, 2004, 11, 横浜.
  - 14) 寺西秀豊, 加藤輝隆, 内田満夫, 稲寺秀邦, 林節男: 富山県における花粉計測装置KP-1000による花粉計測. 第45回日本花粉学会, 2004, 11, 熊本.
  - 15) 寺西秀豊, 加藤輝隆, 内田満夫, 稲寺秀邦: 来春のスギ花粉大量飛散予測と花粉症情報の特徴. 第32回北陸公衆衛生学会, 2004, 11, 富山.
  - 16) 百合野秀朗, 石川 昌, 佐藤卓, 赤出川賢治,

鈴木淳, 稲寺秀邦, 松島綱治: B1細胞による環境ホルモンの自己抗体産生への関与. 第34回日本免疫学会学術集会, 2004, 12, 札幌.

- 17) 百合野秀朗, 石川 昌, 鈴木淳, 矢納史子, 稲寺秀邦, 松島綱治: B1細胞による環境ホルモンの自己抗体産生への関与. 第7回環境ホルモン学会研究発表会, 2004, 12, 名古屋.

#### ◆ その他

- 1) 稲寺秀邦: 生命科学研究の環境医学への統合. 富山医科薬科大学医学会誌, 15:30-33, 2004.
- 2) 稲寺秀邦: 法人化にともなう労働安全衛生対策. 環境安全, 103:19, 2004.
- 3) 寺西秀豊: 職業性花粉症の予防対策について. アレルギー・免疫, 11:96-97, 2004, 5.
- 4) 寺西秀豊: 空中花粉自動計測について. 花粉症研究会会報, 15:38, 2004.
- 5) 寺西秀豊: 日本花粉症学会第44回大会を主催して. 花粉症研究会会報, 15:39-40, 2004.
- 6) 稲寺秀邦: 化学物質の内分泌攪乱性の評価—新規エストロゲン応答遺伝子WISP-2を用いた化学物質のエストロゲン作用の評価系とDNAマイクロアレイを用いた肝障害評価系—. 「内分泌攪乱物質の環境リスク」研究成果報告会, 2004, 1, 京都.
- 7) 稲寺秀邦: 化学物質の生体影響. 第80回富山医科薬科大学社会医学セミナー, 2004, 1, 富山.
- 8) 稲寺秀邦: 化学物質の生体影響. 平成15年度第3回環境・バイオ研究会, 2004, 3, 富山. 富山県新世紀産業機構 富山技術交流センター
- 9) 稲寺秀邦: 環境ホルモンとダイオキシン—最近の話題—. 日本労働安全衛生コンサルタント会富山支部平成16年度総会, 特別講演, 2004, 6, 富山.
- 10) 稲寺秀邦: 身近にひそむ環境ホルモン—ヒトへの影響と必要な対応策—. 富山医科薬科大学, 平成16年度公開講座「健やかに生きるために」はじまった21世紀の医療, 2004, 7, 富山.
- 11) 稲寺秀邦: 熱中症について. 三菱レイヨン株式会社富山事業所管理職層教育, 2004, 7, 富山.
- 12) 稲寺秀邦: 有機溶剤について. 平成16年度第1回高岡地域産業保健センター個別指導事例検討会, 2004, 8, 高岡.
- 13) 稲寺秀邦: 環境ホルモンとダイオキシン. 平成16年度第3回富山県医師会産業医特別部会研修会, 2004, 9, 富山.
- 14) 稲寺秀邦: 職場における労働衛生管理体制. 東ソー・ゼオラム, 衛生講話, 2004, 10, 富山.
- 15) 稲寺秀邦: 内分泌攪乱物質(環境ホルモン)問題. 社団法人日本技術士会北陸支部富山県技術士

会第2回講演会, 2004, 12, 富山.